

平成27年度 やまがた農商工連携ファンド事業採択状況一覧(1次募集)

1 農商工連携事業(補助率:2/3、限度額:300万円/1事業、事業期間:3年以内)◀印は連携体事業者の代表者▶

	区分	農林漁業者	所在地	中小企業者等	所在地	事業計画名	事業期間	事業概要
1	海外展開等支援	東根市農業協同組合	東根市	◎全国農業協同組合連合会 山形県本部	山形市	山形県産農産物の輸出拡大	3年	東根市農協は、県内各農協と協力して農産物の海外市場開拓を模索していた。一方、全農山形は、海外の売り場における「山形県産青果物(加工品)」の定番確保と販売量の拡大を目指し、「オールやまがた」を基本とした輸出事業の強化・展開に取り組むことを検討していた。今回、両者が連携し、県内各農協の協力を得ながら、日本の農林水産物輸出先として第3の非常に大きなマーケットである台湾において、山形県産農産物の常設販売棚(高雄市「大立百貨店」)の設置、また、台湾・香港・タイなど輸出実績の少ない国・品目で輸出拡大のチャンスを探るため輸送試験並びにプロモーションを実施するとともに、これら県産農産物を使用した加工品のセールス・プロデュースを同時に行い、食品全体での輸出拡大を図っていく。
2		◎みちのく村山農業協同組合	村山市	鈴木食品製造株式会社	酒田市	イタリアをはじめとするEUへの地域の特産物販売開拓事業	2年	みちのく村山農協は、山形県がミラノ国際博覧会に出展するに当たって山形県が開催するミラノ市内のレストランを貸し切った現地関係者のレセプションに現地のレストラン、食品・輸入業者、観光関係者等、「食」に関わりのある関係者が招待されることから、これらを絶好の機会と捉え、県内各農協と協力して食事のメニューにそれぞれのJAの食材の提供と、それぞれの食材の紹介を行い、それらの評価を行うとともに、連携先の鈴木食品製造(株)は、現地の評価データをもとにイタリアを含むEUへの輸出を見据えた加工食品の開発を行い、輸出の足がかりをつくっていく。
3	新商品・新サービス開発支援	◎全国農業協同組合連合会 山形県本部	山形市	山形県農村工業農業協同組合連合会	酒田市	県産大豆とトビウオの焼干の粉末を使っただし入り味噌の開発と消費者の声を活かした商品改良	2年	全農山形は、県産大豆を活用した新たな商品化を模索していた。一方、県農工連は、県産農産物を使用した加工食品を多数開発している。今回、両者が連携して、県産大豆と飛鳥産トビウオの焼干を主材料とした「だし入りチューブタイプ味噌」を開発するもので、商品販売にあたっては、全農山形が「山形ブランド」との相乗効果が発揮できるよう県産農産物とあわせて紹介しながら商品の認知向上につなげていく。

2 農商工連携支援事業(補助率:10/10、限度額:200万円、事業期間:2年以内)

	申請事業者	所在地	事業計画名	事業期間	事業概要
1	山形県漬物協同組合	山形市	伝統野菜や地域特産野菜等の使用による新たな漬物製造・提案によるブランド力向上	2年	漬物への加工が可能な伝統野菜や地域特産野菜等の検討・選定と既存の漬け方にこだわらない新たな漬物加工法等を開発検討しながら見本市へ出展するとともに、若者や子供たちが手軽にどこでも食べられる水分の少ない商品開発や意見交換の場の設定(女子会・SNS等)など漬物ブランド力向上に向けた取組みを支援する。
2	やまがた食産業クラスター協議会	山形市	県産農林水産物を活用した加工食品等のEU向け輸出拡大プロジェクト事業	2年	ミラノ国際博覧会に山形県が出展する展示スペースを活用して、来場者に対する県産農産物を活用した加工食品の試食等を通し、製品の原料となる農産物等の魅力を発信するとともに、アンケート結果を踏まえた製品の開発・改良を行い輸出販路開拓を支援する。
3	山形つや姫ブランド化戦略推進本部	山形市	「つや姫」をはじめとした県産米のイタリア(ミラノ)への販路開拓事業	2年	ミラノ国際博覧会に山形県が出展するに当たって、ミラノ市内で山形県が開催するレストラン関係者や流通関係者等を招待するレセプションイベントを活用して、「つや姫」や「はえぬぎ」、「餅」など県産米を食材とした料理の評価について情報収集し、輸出に向けた課題等の整理と対応を行い輸出販路開拓を支援する。
4	おいしい山形推進機構	山形市	芋煮を足掛かりとした県産農産物・加工食品等の発信によるEU市場開拓支援事業	2年	山形県が出展するミラノ国際博覧会のステージイベントを活用して、芋煮や県産農産物を活用した料理の実演・試食を通じて県産農林水産物をPRするとともに、アンケート等から現地ニーズに対応した食材提供方法を検討して輸出販路開拓を支援する。

平成27年度 やまがた農商工連携ファンド事業採択状況一覧(2次募集)

1 農商工連携事業(補助率:2/3、限度額:300万円/1事業、事業期間:3年以内)〈◎印は連携体事業者の代表者〉

区分	農林漁業者	所在地	中小企業者等	所在地	事業計画名	事業期間	事業概要
1	◎朝日町果樹組合連絡会議	朝日町	さがえ西村山農業協同組合	朝日町	朝日町りんごのスマートフレッシュ処理による海外輸出事業	2年	朝日町果樹組合連合会は、町のりんご振興を目的に各出荷組合で構成しており、りんご価格低迷の打開の一貫として輸出事業に取り組んできた。近年輸出各国において中生種の需要や長期販売の要望が増加しているが鮮度の問題があり対応することが難しかったことから、今回、スマートフレッシュによる鮮度保持処理を行うことで品質の向上を図り、中生種から晩生種のふじまで切れ目のない販売を行い、他産地よりも鮮度の良いりんごを販売することで台湾地域でのブランドの確立を模索していた。一方、連携先のさがえ西村山農協は、台湾輸出に伴う選果施設登録や台湾検疫官への対応、輸向け選果日程調整など流通部門を担い、更なる輸出販路の拡大を目指していく。
2	株式会社 高橋フルーツランド	上山市	◎大東精密株式会社	上山市	サクランボの種取機械の開発によるサクランボの有効利用	2年	高橋フルーツランドは、もぎとり園や加工品製造、カフェなどの総合的な観光果樹園を経営しているが、さくらんぼ加工において種を取る工程に労力が非常にかかることから、簡易な種取機械を模索していた。一方、大東精密(株)は、農機具や各種機械器具の製造事業者であるが、自社独自製品の開発を検討していた。今回、両者が連携して、サクランボを冷凍保存して通年加工できる冷凍サクランボの種取り機械の開発に取り組むものである。それにより、冷凍保存し農閑期に加工できるようになり、一次加工原料として菓子製造業者への販売も目指していく。
3	尾花沢スゲ栽培組合	尾花沢市	◎株式会社尚美堂	山形市	ミニ花笠商品化によるスゲ生産体制づくり	3年	尾花沢スゲ生産組合は、花笠踊りの花笠に使用されるスゲ(菅)の生産量が減少していることから、新たにスゲの栽培に取り組むことを模索していた。一方、(株)尚美堂は、花笠など各種物産品の卸などを経営しているが、スゲ生産者の高齢化が進む菅笠の生産体制の中で農業者との連携によるスゲ栽培技術の体系づくり及び、良品なスゲの確保を図るとともに、農業者による菅笠の作り手の育成を検討していた。今回、両者が連携して、生産体制と花笠製作の技術習得を確立するとともに、花笠の新たな商品としてストラップやブローチ等用途向けのミニ花笠の新しい菅笠の商品化と販路開拓に取り組んでいく。
4	最上町アスパラガス生産協議会	最上町	◎新庄もがみ農業協同組合	舟形町	アスパラガスの産地ブランド化を目指した加工新商品の開発と販路開拓	3年	最上町アスパラガス生産協議会は、エコファーマーの認証をうけた県内有数のアスパラ産地として生産に取り組んでいるが、生産量の10%程度を占めている下位等級品の付加価値化を模索していた。一方、新庄もがみ農協は、直営の加工施設での新たな加工商品の開発を検討していた。今回、両者が連携して、地域循環型の環境にやさしい農業から生まれたアスパラガスを活用した加工新商品の開発と販路開拓を行い、生産者の所得向上とアスパラ産地としての更なるブランドの確立に取り組んでいく。
5	◎大沼養蜂 代表 大沼有一	真室川町	株式会社 カキザキ ニューグランドホテル	新庄市	県産蜂蜜を活用した県産ミード酒(蜂蜜酒)の開発と販路開拓	2年	大沼養蜂は、蜂蜜のすばらしさを多くの人々に届けたいとの想いから、新たな商品化として醸造メーカーの協力を得て県内初となるミード酒(蜂蜜酒)の開発を検討していた。一方、(株)カキザキニューグランドホテルでは、最上地域の食材を使った地産池消に力を入れてきており、あらたな食材を模索していた。今回、両者が連携して、地元産ミード酒を使用して結婚式の乾杯酒や引出物等の新たな需要開拓による新商品の販路開拓とともに、蜂蜜の生産拡大に取り組んでいく。
6	新商品・新サービス開発支援	金山町森林組合	◎株式会社徳正合板	山形市	山形県産木材を活用した不燃化粧板の開発	2年	金山町森林組合は、美しい木目で知られる金山杉を生産しているが、木目の美しさにこだわった金山杉の新たな用途を模索していた。一方、(株)徳正合板は、特殊な塗装を施したプリント合板をEM商品として製造しているが、文教施設向けのシナ抗菌塗装パネルを自社開発したことをきっかけに、プリント化粧板の不燃化について研究開発するに至った。今回、両者が連携して、薄くスライスした化粧板を火山性ガラス質複層板の表面に貼り、さらに着色塗装を施すことにより、意匠性が高くコスト競争力のある不燃化粧板の開発と併せて不燃大臣認定を取得し、多様化する不燃内装材のニーズに対応できる商品化を目指すとともに、金山杉の新たな需要拡大に取り組んでいく。
7	井上きのご園 代表 井上学	鮭川村	◎株式会社 和壤	鮭川村	きのごを活用したオーダーメイド型サービスの加工品開発・販路開拓事業	1年	井上きのご園は、菌床しいたけの通年栽培をしているが、規格外品の一部加工品を販売しているものの用途が限られていることもあり、同じ課題を抱える他の品目の菌茸栽培農業者と協力して新たな商品化を模索していた。一方、(株)和壤は、農業生産とともに業務用を中心とした加工食品を製造販売してきているが、小ロットの製造が可能な施設の特徴を活かして、地域色豊かな新たな商品開発による事業拡大を検討していた。今回、両者が連携して、小ロットに対応できるオーダーメイド型の商品開発を行うとともに、開発に当たっては、地元での食育やきのごフェア等でかかわりのあるホテルのシェフのアドバイスをうけながら地域色のある自社商品やホテル等の業務用商品の開発に取り組んでいく。
8	◎井上農場 代表 井上馨	鶴岡市	パティスリール・メランジュ 金野文隆	鶴岡市	つや姫を活用したプレミアムボン菓子の開発及び販路開拓	2年	井上農場は、特別栽培農産物認証を受けた米作りとトマトや小松菜等のハウス栽培のほか、生産物の規格外品を活用したボン菓子等の加工品販売を行っているが、新たな商品開発を模索していた。一方、パティスリール・メランジュは、地域の食材を活用した菓子類の製造販売も行っており、井上農場の人気商品となっているチョコレートを使った米菓子(つやボンDEチョコボン)の製造委託を受けていた。今回、両者が連携して、自社栽培のつや姫と野菜を活用した新たなプレミアムボン菓子として、大人向けと幼児向けの2種類のグラノーラタイプのボン菓子を開発し販路開拓に取り組んでいく。
9	有限会社 最上川ファーム	庄内町	◎太田産商 株式会社	鶴岡市	庄内SPF豚「最上川ポーク」加工品の開発と販路計画	1年	(有)最上川ファームは、庄内SPF豚「最上川ポーク」を飼育してきているが、養豚業界の厳しい状況の中で付加価値のある加工品開発を模索していた。一方、太田産商(株)は、豚の規格肉製造販売を行ってきているが、地元のこだわり食材を活用した加工品の開発販売を検討していた。今回、両者が連携して、地元老舗のこだわりの味噌や酒粕を使用した加工品の開発を行うとともに、自社ブランド豚肉と地元名品とコラボしたギフト品を開発し、庄内発の発信を心掛けながら販路開拓に取り組んでいく。
10	山形県漁業協同組合	酒田市	◎新栄水産 有限会社	酒田市	あみえび醤油加工商品の開発と販路開拓	1年	県漁協と新栄水産(有)が連携して、庄内浜の未利用の「アミエビ」を活用した魚醤「あみえび醤油」を開発し旨味調味料として商品化し販売してきている。今回、両者が再び連携して、「あみえび醤油」製造に伴って派生する諸味や残渣などの副産物を調味用原料とし庄内浜の低利用魚を活用した新たな調味料や魚醤の粉末化の商品開発を行うとともに、これら新商品の用途開発を行いながら販路を開拓して、庄内浜の活性化に取り組んでいく。

2 農商工連携支援事業(補助率:10/10、限度額:200万円、事業期間:2年以内)

申請事業者	所在地	事業計画名	事業期間	事業概要
1 一般社団法人 山形県国際経済振興機構	山形市	シンガポール新規マーケット・新規パートナー開拓事業	1年	ASEAN諸国における県産農産物等の認知向上を図るためのブランド化、販路開拓を支援するもので、具体的には、ASEAN諸国のハブ機能を有するシンガポールをターゲットにして、スーパーや日本食レストランへ県産食材を提供し「県産食材フェア」の開催や業務用への拡大の可能性を検討するとともに、現地の嗜好や価格と量目に関する調査(値ごろ感)を行い出荷から販売までのバリューチェーンの調査を実施するなどの販路開拓を支援する。

平成27年度 やまがた農商工連携ファンド事業採択状況一覧(3次募集)

1 農商工連携事業(補助率:2/3、限度額:300万円/1事業、事業期間:3年以内)◀◎印は連携体事業者の代表者▶

区分	農林漁業者	所在地	中小企業者等	所在地	事業計画名	事業期間	事業概要	
1	海外展開等支援	庄内みどり農業協同組合	酒田市	◎全国農業協同組合連合会山形県本部	山形市	県産米・県産加工食品ハワイ輸出市場開拓プロジェクト事業	2年	JA庄内みどりは、これまでメロン・なし・敬翁桜、米などの輸出に取組んできたが、輸出実績は伸びない実情にあることから、酒田地区農産物輸出推進協議会に参画し輸出事業の拡大を目指している。一方、JA全農山形は、県内JAと協力して台湾を中心に東南アジアにおける農産物等の輸出事業を展開してきており一定の販路を開拓しつつある中で新たな輸出先を検討していた。今回、両者が連携して、新たな市場開拓先として将来の米国輸出を見据えて、ハワイ向け輸出を計画したもので、県のやまがた特命大使をしている方の人脈やつながりを活用してハワイのバイヤーや小売店舗等との取引推進を図るとともに、認知度向上のための現地でのプロモーションやアンケート・市場調査を実施しながらハワイでの市場開拓に取組んでいく。
		山形おきたま農業協同組合	川西町	◎有限会社新枵屋	米沢市	「やまがた置賜米」海外市場開拓輸出事業	1年	JA山形おきたまは、米の消費量が減り小規模農家主体の農業構造の中で、これまでと同様の生産販売対応では厳しい状況にあることから、米の輸出を模索していた。一方、新枵屋は、主力商品の「牛肉どまんなか弁当」が国内駅弁市場ではトップの売上を上げているものの、新たな事業展開として台湾向けの弁当輸出事業を検討していた。今回、両者が連携して、現地で米として販売するのではなく、ご飯として弁当やおにぎりを現地で製造して販売するもので、より付加価値の高い輸出事業に取組んでいる。
3	今田 智哉	東根市	◎合同会社東根フルーツワイン	東根市	果樹王国ひがしね特産フルーツワインの開発と販路開拓	2年	今田智哉は、サクランボを中心とした果樹専業農家であるが、規格外果実の利活用を模索していた。一方、合同会社東根フルーツワインの代表者は、勤務していた大学で作物研究とともに醸造の研究を行ってきたこともあり、出身地の当地で初めてのワイナリーを立ち上げて特産の果実からワインを製造することを計画していた。今回、両者が連携し、さくらんぼ、ラフランス、りんごの規格外果実を使用した、それぞれのフルーツワインを醸造するもので、特に、これら果実の品種別のワイン醸造による本物志向のワインづくりに取組んでいく。	
4	◎株式会社おきたま興農舎	高畠町	有限会社米工房たかはた	高畠町	高鮮度発酵芽米商品開発事業	2年	おきたま興農舎は、有機農業や環境型保全農業に取組んできたが、食味競争に陥っては本質的な意味をなさなくなるとの想いから、健康を視点とした新たな商品開発を模索していた。一方、米工房たかはたは、精穀業として産地精米しているが、保有している低温粒貯蔵設備や胚芽精米専用の精米機を活用して胚芽米の付加価値を高める商品化を検討していた。今回、両者が連携して、これらの設備と地域にある雪室貯蔵施設を活用して、高鮮度玄米を原料にして自然発酵乳酸菌パウダーを添加して発酵処理した発芽米をレトルト加工品にした商品開発に取組んでいく。	
5	新商品・新サービス開発支援	梅沢 健治	飯豊町	◎来々軒代表 信田明宏	飯豊町	飯豊町産平核無柿の柿渋開発による地域資源活用商品化事業	2年	梅沢健治は、米を中心に農業を営んでいるが、町内の民家にある柿が放置されてきたことから、有志と一緒に立ち上げた「柿の木会」のメンバーとして柿の商品化に取組んできたが、柿の有効活用を目指して効率的な集荷方法や柿渋の農業場面での利活用を模索していた。一方、来々軒は、飲食業を営む傍ら「柿の木会」のリporterとして、柿酢やジャム、菓子などの商品化をしてきたが、柿渋の特性を活かした新たな商品開発を検討していた。今回、両者が連携して、柿渋製造法を確立して、農業生産場面での利用研究や木工塗装、柿渋染めの原料とする商品化を行い、地域資源の活用拡大に取組んでいく。
6	◎株式会社ライズ・イン	鶴岡市	株式会社出羽の四季	鶴岡市	自社生産のミネラル特別栽培米「でわのもち」による笹巻き新商品「庄内十二単」(仮)の製造・販路開拓	1年	株式会社ライズ・インは、水稲を中心に野菜生産のほか、干し柿、味噌加工を行うとともに、自社の米と併せて仕入れた米を首都圏を中心に大手米卸会社に販売しているが、米価の下落により所得が減少してきていることから、付加価値の高い商品開発や直販展開などの新たな事業展開を模索していた。一方、出羽の四季は、地元商工会の農商工連携の活動を支援するために設立したもので加工品の製造販売や流通を担ってきており、新たな連携事業を検討していた。今回、両者が連携して、庄内地方に伝わるもち加工品である笹巻きのたけのこ巻き商品の商品化に取組むもので、高付加価値商品として各種祝い事での使用を想定したギフト販売に取組んでいく。	
7	◎鼠ヶ関水産加工生産組合長 飯塚 厚司	鶴岡市	山形県漁業協同組合	酒田市	庄内浜の水産物高鮮度高付加価値商品開発事業	2年	鼠ヶ関水産加工組合は、鼠ヶ関地域の漁業者で構成し、漁家所得の向上と経営安定を図るため加工施設を整備し地域漁業の振興発展に取組んできているが、庄内浜では少量多品魚種が水揚げされるもの時化で年間の1/3しか出漁ができないことから、鮮度を維持した一次加工の商品化を模索していた。一方、県漁協は、新たな取り組みとして、山形市内にインショップ形式の直営店を本年3月に開設したが、時化で鮮魚販売ができない場合の代替商品を検討していた。今回、両者が連携して、獲れたての魚を店で販売しやすい形に一次加工して急速冷凍した水産加工品を開発し、直営店での安定販売に取組んでいく。	
8	◎山形県漁業協同組合	酒田市	なべくらファーム代表 鍋倉 康治	山形市	庄内浜水産物商品開発事業	1年	山形県漁業協同組合は、県内内陸部への流通普及の拠点として山形市内に本年3月に開設した直営店において、一般消費者への販売や「やまがた庄内浜の魚応援店」として登録している飲食店などに卸販売の強化を図るとともに、更なる販売拡大を図るための加工新商品を検討していた。一方、なべくらファームは、水稲や野菜生産を行うとともに「野菜農家のおかず屋さん」を開業し野菜等の直売、飲食、惣菜販売を展開しているが、庄内浜の魚を使用したメニューや加工品等の商品バリエーションを増やすことを模索していた。今回、両者が連携して、なべくらファームのシェフによる加工品・レシピ開発の支援を仰ぎながら、庄内浜の魚を使用した新商品(ふりかけ、鍋スープのもと等)を開発し、直営店での更なる顧客獲得に取組んでいく。	

2 農商工連携支援事業(補助率:10/10、限度額:200万円、事業期間:2年以内)

申請事業者	所在地	事業計画名	事業期間	事業概要
1 果樹王国ひがしね6次産業化推進協議会	東根市	果樹王国ひがしね6次産業化推進に係る連携体支援事業	2年	東根市内の農商工連携や6次産業化に取組んでいる農林漁業者や中小企業者の連携事業者に対し、新商品の開発や展示会等への出展、販路拡大等を支援するもので、具体的には、連携事業者を対象とした展示会等への出展支援、セミナー等の開催、イベントを活用した出展・展示、商品紹介パンフレット作成、ブランディング支援などの販路開拓を支援する。